

## 第50回通常総会を開催しました。

平成30年5月23日

長野市内において、役員・会員多数の参加を得て通常総会を開催しました。



高見澤秀茂会長は「骨材生産事業を取り巻く厳しい環境が続く中、協会では、

昨年度、公共事業の一層の推進や、原石確保に向けた規制緩和など、関係行政機関への要望活動の取組を推進してきた。特に、軽油引取税の課税免除期限の延長に向けて、加盟する日本砂利協会等、中央の団体と足並みを揃え、県砕石工業組合とも連携した要請活動によって、平成30年度から3年間の延長が決まり大きな成果となった。協会組織は、昨年、上小地区が東信と名称変更するとともに佐久地区が解散するなど地区再編が行われた。会員数は、昨年から7社が退会し86社となり、会員数の大幅な減は今後の協会運営への影響が生じる喫緊の課題である。」とあいさつしました。



議長には高見澤会長が就任し、議案第1号から4号までの議案を審議し全て承認されました。本年度は任期満了に伴う役員改選となり、総会において理事・監事の承認後、引き続いて開催された理事会において、高見澤会長及び松田文治副会長が再任、新たに太田純雄理事、片井周一理事が副会長に選任されました。また、専務理事には協会事務局長の高野義男氏が再任されました。選任後の総会では、高見澤会長があいさつし、新役員が一致協力して会の運営を担い、更に会員の結束を呼び掛けて通常総会が終了しました。